

デジタル ボイス

メールカウンセリングの現場から

安藤 房子

もう何年か前に、主婦の知人から聞いた話。その人の周囲には、いわゆるセレブ指向で裕福な人が多く、働く女性を見下す傾向があったという。彼女が仕事をしていることを知ると、「あら、どうして仕事なんてなさってるの？ お金に困っていらっしやるの？」と言ってきたそう。

そこで知人が、「私、語学が好きなので翻訳の仕事をしているんです」と職業を明かしたところ、彼女たちの態度が一変。ステータスの高い知的な職業に弱い彼女たちは、こう続けたという。「あなたのように能力のある人が仕事をしているのは理解できるけれど、パートで誰でもできるような仕事をしている女性って、やっぱりどうかと思うわ」

その話を聞いたとき、私は、人間の本質的な欲望というものを感じた。人は誰も、他人から認められたいという

【承認の欲求】を持っている。だから社会的地位やお金や権力が好きなのだ。誰しも、他人と自分を比較して「自分のほうが優位だ」と思うことでホッとするときもあるのではないだろうか。

だけど、そのセレブ指向の人たちのような、いきすぎた【承認の欲求】には、嫌悪感を感じてしまう。どんな仕事をしようとしまいと本人の自由だし、他人の選んだ道をどうこういう権

生き方の違いに 優劣なんてない

利なんて、誰にもない。

仕事に優劣なんてない。仕事だけじゃなく、どんな生き方にも優劣なんてつけられないのではないだろうか。

なのに、残念だけれど、人は職業や生き方に優劣をつけたがる。優劣をつけて跳ね返す強さを持つ人もいるけれど、中には、深く傷つく人も

もいる。たとえば、最近の私の相談者の中に、お受験問題で悩む女性がいる。都

心では、中学受験のために小学生が塾に通うのはごく普通のことのようにだ

し、有名私立幼稚園のお受験に熱心なママも稀(まれ)ではない。ところが、お受験させるママたちは、お受験させ

ないママとその家族を馬鹿(ばか)にする傾向がある。その相談者は、金銭的な余裕がないためお受験は考えていなかった。ずっと公立で十分だろうと

考えていた。ところが、それがきっかけで地域の主婦から仲間はずれにさ



れたのだという。また、

別の女性は、子供を保育園に預けて派遣社員として働いているのだが、やはり地域の女性から陰で悪口を言われている。た。

その内容は、「うちの子は幼稚園で育てているのだから、保育園で育てている子と遊ぶことは避

けたいわ。保育園育ちの子は、お洋服もまともなものを持っていない貧乏人だから」というものだった。

また、ある女性は、シングルマザーというだけで周囲から馬鹿にされていた。子供同士が喧嘩(けんか)をしたときなどは、シングルマザーの子供が悪者扱い。「片親の子は、やっぱりダメ

ね」と、嫌みたっぷりに言われている(恋愛カウンセラー・作家、大江町出身)

なのに、他人と自分を比較したがるから、トラブルは起きるのだ。他人のすべてを理解するなんて、そもそも無理なこと。理解はできなくても、否定せずに、他人の中に、自分にはないものを見いだしていくほうが、うんと楽しいことなのではないだろうか。